

コンタクトケアのプロセス

グループングケア

2012/09/01

グループングケア研究会 代表 遠藤 邦弘

コンタクトケアのプロセス

- (1) 対面する（態度・表情・まなざし・声・言葉等でのコミュニケーション）
 - ①利用者の視野に立ってのアプローチ（距離との関係）
 - ②ゆったりとしたペース、穏やかなトーン（大声・かん高い声）
 - ③ウエィティング（待つケア→動き・意欲・自尊心を抑制しない）
 - ④アイコンタクト
（声の高さ、目の高さ、行動の早さ、認める、ほめる、さする、いっしょにする）
- (2) いっしょにする（孤立させないケア・シッティング・アタッチメントの工夫）
 - ①視線を同じにして共に行う。
 - ②情緒の安定・安心を促す。
- (3) 触れる（タッチケア）
 - ①情報はふれあい（皮膚）からも入る。
 - ②ゆったりとしたペースとリラックス。
 - ③一方的なタッチは不快を招く。
- (4) 伝え合う（共感）
 - ①シグナルをキャッチ（相手の言葉、音声、表情、身体の備え、しぐさの意味を読む）
 - ②伝わるように伝える（高音ではなく、穏やかに話す）
 - ③沈黙の誘導（早口やキンキン声は心にマスクングを起こす）
- (5) 関心と尊重、関心と賞賛
 - ①利用者の生き方や力量に関心を持つ。
 - ②尊重した言葉や態度で表現する。
 - ③利用者の反応を敏感にキャッチし賞賛する。

プロとしての条件

※①知識技術能力 ②介護技術 ③態度能力 ④接遇 ⑤心のケア

※笑顔と優しい口調！

※相手側からものを考える！

※施設の常識は家庭の非常識！

※集団の常識は個人の非常識！